

最新医療経営

PHASE3
フェイズ・スリー

October 2021 vol.446

10

PHASE3
TOPICS

特集

地域包括ケア病棟協会2021年度アカデミー
多職種協働で運営する
エキスパートを養成

病院の役割は「治す」だけ？

「生きる力」 を引き出す医療



病院トップの経営者魂
北井祥三
社会医療法人弘仁会
大島病院 院長
(京都市伏見区)
「後方支援の充足を図る」

高橋教授の
この人に会いたい
岩中 督
埼玉県立病院機構理事
外科系学会社会保険委員会連合会長



病院新時代
医療法人誠心会
前原総合医療病院
(鹿児島県日置市)

医療・介護横断によるグループ学術大会を開催



グループ関係者が集まりさまざまな職種がそれぞれの視点に立った発表に耳を傾けた

大阪市で病院、診療所、介護事業所、保育所など3法人15事業所を展開する医療法人弘善会は、7月4日に大阪市中央公会堂で第6回弘善会グループ学術大会を開催した。テーマは「事実の探求と新たな発見への変化への挑戦」。医療

や介護について講演やシンポジウム、スタッフによる一般演題発表などが行われた。

同学術大会は、グループ内の壁を取り除き、横のつながりを大切にすることを目的に年に一度、開催している。改めてグループ全体の方向性を確認できる機会としているとともに、患者や利用者の満足度を上げる数々の取り組みを発表することで、職員が自らの持つ価値を再認識することができ、より仕事に対するモチベーションを上げる効果が期待されるという。また、普段あまりかわらない他の施設でどのようなことをやっているかを知ること、知の共有を図る狙いもある。

開会にあたり矢木崇善理事長は「医療と介護の総合的な学会はあまりないと思うが、日頃の思いをこの学会でぶつけていただき、皆

さんの発表を少しでも明日の医療と介護に結びつけていただきたい」と挨拶した。

特別講演では、「グローバル人材を育成する国際看護学部の特長」をテーマに、大手前大学国際看護学部の鈴木江三子学部長が登壇。「国際化する日本で、定住外国人に加えて訪日外国人も今後さらに増加することが予想され、特定の医療施設のみならず、すべての医療機関で多様性を有する対象者への看護が求められている」と、コロナ禍が落ちつけば外国人が急増するとの予測を示した。そのうえで、「地球を一つの地域ととらえ、そこに暮らす多様な人々を対象に、人が人として豊かに暮らすことの意味を問いながら看護が行える専門職を増やしていきたい」と、これまで以上に多様な社会背景をもった人たちに向き合える看

護専門職養成の必要性を訴えた。続く基調講演では、近畿大学薬学部の北小路学准教授が「医療系薬学部教育の実際と今後」について語り、医療現場での活躍が求められる薬剤師の育成における課題等を解説した。

シンポジウムでは、こうぜんかい・はうす生野の松浦敦史施設長、矢木脳神経外科病院梅田麻由副看護部長、大阪医科薬科大学脳神経外科脳血管内治療科の矢木亮吉助教、グループ事業部の柏木龍一事業部長が登壇し、人材育成、職員のエンゲージ向上、今後の経営的視点などについて話し合われた。

一般演題は4つのカテゴリーでそれぞれに座長が設けられ、各部署から選ばれたスタッフ15人が日頃の取り組みの成果などを発表。会場参加者からの質疑応答なども行われた。